

DDF (Demand Data input/output Facility) 利用法

山崎, 信広
九州大学中央計数施設

<https://doi.org/10.15017/6768418>

出版情報：情報処理教育広報. 7 (1), pp.19-41, 1984-08. Educational Center For Information Processing, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



DDF (Demand Data input/output Facility) 利用法

山崎 信広*

1. DDFの概要

DDFは簡単な操作でディスク中のデータセット（以下DASDと略す）と磁気テープ（以下MTと略す）との間のデータ転送を行うために作成されたシステムである。

1. 1 DDFの機能

- ① MTからDASDへの転送
- ② DASDからMTへの転送
- ③ MTの初期化
- ④ MTラベル情報の表示
- ⑤ MT管理情報の表示及び削除
- ⑥ DASD管理情報の表示及び削除

1. 2 操作の流れ

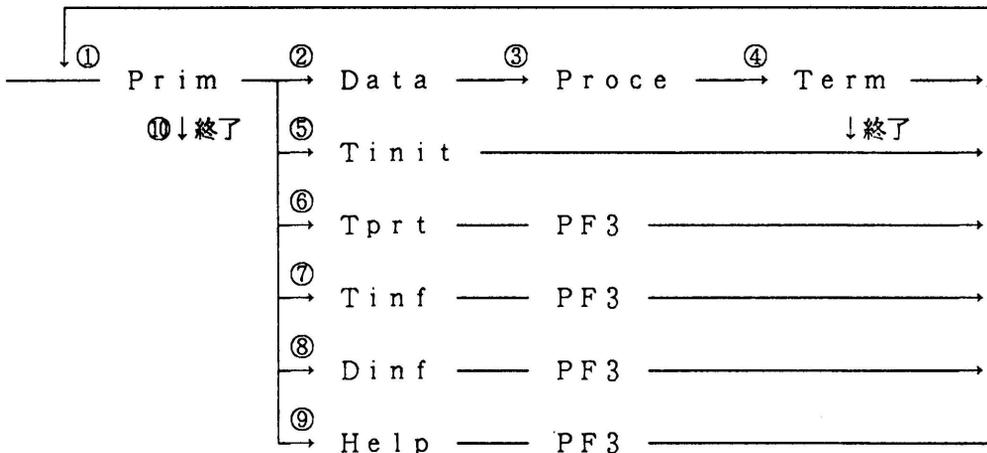


図1. 1 操作の流れ

- ① DDFコマンドを入力すると、DDF PRIMARY OPTION MENU画面（以下 Prim と略す）が表示されオプション番号によって機能を選択することができる。
- ② Prim でMT→DASDまたはDASD→MT転送（オプション0または1）を選択すると、DATA SET INFORMATION画面（以下 Data と略す）が表示されデータセットに関する情報を入力する。

- ③ Data の入力終了すると、PROCESSING INFORMATION画面（以下 Proce と略す）が表示されMTの取り付け要求が出力される。
- ④ 処理が終了すると、TERMINATION MENU画面（以下 Term と略す）が表示されメニューの選択により Prim に戻るか終了するかを決める。
- ⑤ Prim でMTイニシャライズ（オプション2）を選択すると、TAPE INITIALIZE画面（以下 Tinit と略す）が表示され、ボリューム通し番号と記録密度を入力するとMTの取り付け要求が出力される。処理が終了しENTERキーを押すとPrim に戻る。
- ⑥ Prim でMTラベル情報の表示（オプション3）を選択すると、TAPE PRINT画面（以下 Tprt と略す）が表示されMTの取り付け要求が出力される。処理が終了すると画面上にMTラベル情報が表示される。PF3 を押すことにより Prim に戻る。
- ⑦ Prim でMT管理情報の表示と削除（オプション4）を選択すると、TAPE INFORMATION画面（以下 Tinf と略す）が表示され、今までにDDFで作成されたMTの管理情報が表示される。PF3 を押すことにより Prim に戻る。
- ⑧ Prim でDASD管理情報の表示と削除（オプション5）を選択すると、DASD INFORMATION画面（以下 Dinf と略す）が表示され、今までにDDFで作成されたDASDの管理情報が表示される。PF3 を押すことにより Prim に戻る。
- ⑨ Prim でHELP情報の表示（オプション7）を選択すると、DDF HELP MENU画面（以下 Help と略す）が表示されPF3 を押すことにより Prim に戻る。
- ⑩ Prim でDDFの終了（オプション8）を選択することによりDDFを終了する。

2. 各画面の説明

第1行	見出し領域 * 1
第2行	オプション選択領域 * 2
第3行	メッセージ領域 * 3
第5行	パラメタ入力又は処理結果の表示領域 * 4
不定	操作手順表示領域 * 5

図2. 1 メニュー画面の一般形式

- * 1 現在表示されている画面の見出しが表示される。
- * 2 オプションの選択が必要な画面ではオプションの入力領域となる。
- * 3 DDFからのメッセージが表示される。
- * 4 画面によってパラメタの入力領域となったり、処理結果が表示されたりする。
- * 5 操作手順が表示されている。

2. 1 DDF PRIMARY OPTION MENU画面

```
-----< DDF PRIMARY OPTION MENU >-----  
OPTION==> *1  
  
0: TAPE-->DASD      - COPY FROM TAPE TO DASD  
1: DASD-->TAPE      - COPY FROM DASD TO TAPE  
2: TAPE INITIALIZE  - INITIALIZE TAPE LABEL  
3: TAPE PRINT        - DISPLAY CONTENTS OF TAPE LABEL  
4: TAPE INFORMATION - GET TAPE INFORMATION FROM DDF  
5: DASD INFORMATION - GET DASD INFORMATION FROM DDF  
6: MODE INFORMATION - GET DDF STATUS INFORMATION  
7: HELP              - GET INFORMATION ABOUT DDF FUNCTION  
8: EXIT              - COMPLETE DDF TERMINATION  
9:                  -  
USER-ID   ==> *2  
TAPE-DSN  ==> *3  
TAPE-VOL  ==> *4  
DASD-DSN  ==> *5  
-----  
.SELECT OPTION  
.SPECIFY PARAMETERS  
.PRESS ENTER
```

図2. 2 Prim

この画面はDDFコマンドを入力すると最初に表示され、これから行いたい処理を選択する。

* 1 行いたい処理を0～8のオプションから選択する。

0：磁気テープからDASDへの転送を行う。

1：DASDから磁気テープへの転送を行う。

2：磁気テープラベルの初期化を行う。

3：磁気テープラベルの表示を行う。

4：DDFで作成した磁気テープに関するデータセットの各種属性を表示する。

5：DDFで作成したDASDに関するデータセットの各種属性を表示する。

6：無効。

7：DDFの操作方法に関する情報を表示する。

8：DDFの処理を終了する。

* 2 利用者識別名

常に表示されている。

* 3 磁気テープのデータセット名

オプションとして0, 1のいずれかを選択した場合に引用符でくくって指定する。

オプション1を選択した場合, DASD上のデータセット名と同じデータセット名にする時は指定する必要はない。

* 4 磁気テープのボリューム通し番号

オプションとして0, 1, 2, 3, 4のいずれかを選択した場合に指定する。

* 5 DASD上のデータセット名

オプションとして0, 1のいずれかを選択した場合に指定する。

オプション0を指定した場合, 磁気テープ上のデータセット名と同じデータセット名にする時は指定する必要はない。

2. 2 DATASET INFORMATION画面

```
-----< DATASET INFORMATION >-----USER-ID = *1 -----  
  
---<FUNCTION : *2                > ---  
UTILITY ==> *3  0: JSGMOVE  1: JSECOPY  2: JSDGENER  3:  
DSORG  ==> *4  0: PS    1: PO(M)   2: PO    3:DA  
< TAPE INFORMATIONS >  
  DATASET NAME ==> *5  
  DATASET NUMBER==> *6  
  VOLUME SERIAL==> *7  
  LABEL TYPE   ==> *8  DEN ==> *9  1: 556  2: 800  3:1600  4: 6250  
  RECORD FORMAT==> *10 LRECL ==> *11  BLKSIZE ==> *12  
< DASD INFORMATIONS >  
  DATASET NAME ==> *13  
  DATASET MEMBER NAME ==> *14          (ONLY PO(M))  
  VOLUME SERIAL==> *15  UNIT NAME==> *16  
  SPACE UNIT   ==> *17  VALUE ==> *18  INCREMENT ==> *19  
  AVERAGE BLKL ==> *20  DIRECTRY ==> *21  DISP ==> *22  
  
  RELEASE JOB ==> *23  
  
-----  
.SPECIFY DATASET INFORMATIONS  
.PRESS ENTER KEY
```

図2. 3 Data

この画面は Prim でオプション1または2を選択した場合に表示され、MTとDASDのそれぞれのデータセット属性などを入力する。

- * 1 利用者識別名が表示される。
- * 2 Prim でオプション0を選択したときには 'TAPE-->DASD' が、オプション1を選択したときには 'DASD-->TAPE' が表示される。
- * 3 データ転送を行うユーティリティを指定する。
 - 0 : 無効。
 - 1 : 区分データセットの転送に使用する。
 - 2 : 順データセットまたは区分データセットのメンバの転送に使用する。
 - 3 : 無効。
- * 4 処理の形態を指定する。
 - 0 : PO 順データセット
 - 1 : PO (M) 順データセットを、区分データセットの一つのメンバとして転送する。または区分データセットの一つのメンバを転送する。
 - 2 : PO 区分データセット
 - 3 : DA 直接データセット
- * 5 磁気テープ上のデータセット名
- * 6 * 5のデータセットの順序番号
- * 7 磁気テープのボリューム通し番号

データセットがマルチボリュームの場合には5個まで指定可能である。
- * 8 ラベル情報
 - NL : ラベルを持たない
 - SL : 標準ラベル
 - AL : 米国規格標準ラベル
- * 9 記録密度
 - 1 : 使用できない。
 - 2 : 使用できない
 - 3 : 1600 bpi
 - 4 : 6250 bpi
- * 10 レコード形式を指定する。
 - U : 不定長レコード
 - F : 固定長レコード
 - V : 可変長レコード
 - T : トラックオーバーフローレコード
 - B : ブロック化レコード
 - S : スパンレコード

A : ANS I 制御文字

M : 機械制御文字

- * 1 1 論理レコード長を指定する。
- * 1 2 ブロックサイズを指定する。
F / F S のときはレコード長と等しい値がとられる。
F B / F B S のときはレコード長の整数倍で指定する。
V / V B / V B S はたは U のときは最大ブロック長で指定する。
- * 1 3 D A S D 上のデータセット名
- * 1 4 メンバ名
* 4 で 1 を指定したときのみ有効である。
- * 1 5 D A S D データセットを確保するボリューム通し番号
- * 1 6 ユニット名
- * 1 7 スペース割当単位
B L K : 平均ブロック長
T R K : トラック単位
C Y L : シリンダ単位
- * 1 8 初期量を指定する。
- * 1 9 増分量を指定する。
- * 2 0 平均ブロック長
- * 2 1 ディレクトリの大きさ
* 4 で 3 以外を指定した場合は先に表示されている初期値を D E L キーで削除しなければならない。
- * 2 2 P r i m でオプション 1 を選択した場合、D A S D 上のデータセットの K E E P または D E L E T E を指定する。
- * 2 3 データ転送後に、リリースを行いたいジョブのジョブ名またはジョブ番号を指定する。ジョブ名は引用符で囲んで指定する。ジョブ番号を指定する場合は、先頭に J をつける。

2. 3 PROCESSING INFORMATION画面

```
-----< PROCESSING INFORMATION >---USER-ID = *1 -----  
  
      NOW PROCESSING( *2      )  
      USED TO *3  
      STARTED TIME: *4  
      INPUT DATASET: *5  
      OUTPUT DATASET: *6  
-----
```

図2. 4 Proce

この画面は Data の入力終了すると表示され、メッセージ出力領域にMTの取り付け要求メッセージが表示される。

* 1 利用者識別名が表示される。

* 2 処理形態が表示される。

TAPEからDASDへの転送の場合は' TAPE-->DASD 'が表示される。

DASDからTAPEへの転送の場合は' DASD-->TAPE 'が表示される。

* 3 使用されている磁気テープのボリューム通し番号が表示される。

* 4 複写を開始した時刻が次の形式で表示される。

HH:MM:SS

HHは時間、MMは分、SSは秒を表す。

* 5 複写元のデータセット名が表示される。

* 6 複写先のデータセット名が表示される。

2. 4 TERMINATION MENU画面

```
-----< TERMINATION MENU >-----USER-ID = *1 -----
OPTION ==> *2

0: RETRY - RETURN TO DDF PRIMARY OPTION MENU
1: EXIT  -COMPLETE DDF TERMINATION
2: DELETE - DELETE DASD DATASET

PROCESSING( *3          ) ENDED, *4
STARTED TIME: *5
ENDED TIME: *6
INPUT DATASET: *7
OUTPUT DATASET: *8
-----
```

図2. 5 Term

この画面はMT→DASD, DASD→MT転送の処理が終了すると表示され、オプションの選択により Prim 戻るか終了するかを決める。

* 1 利用者識別名が表示される。

* 2 次に行う処理を選択する。

0: Prim に戻る。

1: DDFの処理を終了する。

2: DASD上のデータセットを消去する。

* 3 処理形態が表示される。

TAPEからDASDへの転送の場合は'TAPE-->DASD'が表示される。

DASDからTAPEへの転送の場合は'DASD-->TAPE'が表示される。

* 4 ユーティリティからの復帰コードが返される。

* 5 複写を開始した時刻が次の形式で表示される。

HH:MM:SS

HHは時間、MMは分、SSは秒を表す。

* 6 複写を開始した時刻が* 5と同じ形式で表示される。

* 7 複写元のデータセット名が表示される。

* 8 複写先のデータセット名が表示される。

2.5 TAPE INITIALIZE画面

```
-----< TAPE INITIALIZE >-----USER-ID = *1 -----  
  
VOLUME ==> *2  
TYPE ==> *3      0: SL      1: NL      2: JL      3: AL  
DENSITY ==> *4    1: 556     2: 800     3: 1600    4: 6250  
-----  
.MOUNT TO TAPE FOLLOWING BY MESSAGE  
.SPECIFY PARAMETERS  
.PRESS ENTER
```

図2.6 Tinit

この画面は Prim でオプション2を選択した場合に表示され、初期化するMTの取り付け要求メッセージが表示される。

- * 1 利用者識別名
- * 2 磁気テープのボリューム通し番号
- * 3 ラベル情報
 - 0: SL 標準ラベル
 - 1: NL ラベルを持たない。
 - 2: JL JIS標準ラベル
 - 3: AL 米国規格標準ラベル
- * 4 記録密度
 - 1: 使用できない。
 - 2: 使用できない。
 - 3: 1600 bpi
 - 4: 6250 bpi

2. 6 TAPE PRINT画面

```
-----< TAPE PRINT >-----USER-ID = *1 -----  
  
VOLUME: *2      DENSITY: *3  
  SEQ  DATASET-NAME      YYDDD FM-ATR BLKSIZE LRECL  SYSTEM CODE  
  *4   *5                *6   *7   *8     *9    *10  
  
-----  
.PRESS END KEY TO TERMINATE TAPE PRINT MENU.
```

図2. 7 Tprt

この画面は Prim でオプション4を選択した場合に表示され、MTの取り付け要求メッセージが表示される。データセットの数が多くて一画面に入りきらない場合は PF8（画面送り）と PF7（画面戻し）キーを押下することによりその内容を見ることができる。

- * 1 利用者識別名
- * 2 磁気テープのボリューム通し番号
- * 3 記録密度
- * 4 ボリューム通し番号
- * 5 データセット名
- * 6 年間通算日
- * 7 レコード形式（ Prim の*10参照）
- * 8 ブロック長
- * 9 レコード長
- * 10 システム コード

2. 7 TAPE INFORMATION画面

```
-----< TAPE INFORMATION >-----USER-ID = *1 -----
OPTION ==> *2

VOLUME: *3          LABEL TYPE: *4          DENSITY: *5
SEQ DATASET-NAME    YYDDD FM-ATR BLKSIZE LRECL  UTILITY
*6  *7              *8    *9      *10     *11   *12

-----

.PRESS END KEY TO TERMINATE TAPE INFORMATION MENU.
.OPTION IS 'D' OR 'DELETE' (IF TAPE INFORMATION DELETE).
.PRESS ENTER KEY.
```

図2. 8 T i n f

この画面は Prim でオプション5を選択した場合に表示され、今までにDDFで作成されたMTの管理情報が表示される。

- * 1 利用者識別名
- * 2 管理情報を削除する場合は ' D ' または ' DELETE ' を入力する。
- * 3 磁気テープのボリューム通し番号
- * 4 ラベル情報
- * 5 記録密度
- * 6 テープ順序番号
- * 7 データセット名
- * 8 作成された年月日
- * 9 レコード形式 (Prim の * 1 0 参照)
- * 1 0 ブロック長
- * 1 1 レコード長
- * 1 2 使用ユーティリティー

2. 8 DASD INFORMATION画面

-----< DASD INFORMATION >-----USER-ID = *1 -----

DATASET-NAME	VOLUME	YYDD	TYPE	UTILITY	UNIT	VALUE	INCREMENT
*2 *3	*4	*5	*6	*7	*8	*9	*10

.PRESS END KEY TO TERMINATE DASD INFORMATION MENU.
.SPECIFY 'D' ON THE LEFT-CHARACTER (IF DASD INFORMATION DELETE).
.PRESS ENTER KEY.

図2. 9 Dinf

この画面は Prim でオプション6を選択した場合に表示され、今までにDDFで作成されたDASDの管理情報が表示される。

- * 1 利用者識別名
- * 2 削除したい管理情報がある時に 'D' を指定する。
- * 3 データセット名
- * 4 DASDボリューム通し番号
- * 5 データの作成された年月日
- * 6 データセット タイプ
- * 7 ユーティリティ名
- * 8 スペース割当単位
- * 9 初期量
- * 10 増分量

3. 使用例

図中の下線部は利用者が入力する部分である。

入力するパラメータの意味がわからないときはパラメータの入力位置にカーソルを移動させ疑問符 ' ? ' を入力する。

3. 1 MT→DASD転送

① ' PROC (TSSB) ' のパラメータを付けてLOGONし、DDFコマンドを入力する。

例1. 1 LOGON～DDFの開始

```
LOGON TSS ABC1234 PROC(TSSB)  
KEQ56714A ENTER CURRENT PASSWORD FOR ABC1234-  
_____ ←パスワードは表示されない。  
KEQ56455I ABC1234 LOGON IN……  
KEQ5695I NO BROAD……  
READY  
DDF
```

- ② Prim が表示されるのでオプション0を指定し、MTのデータセット名、ボリューム通し番号、DASDのデータセット名を指定した後にENTERキーを押す。

例1. 2 Primの入力

```
-----< DDF PRIMARY OPTION MENU >-----
OPTION==> 0

0: TAPE-->DASD      - COPY FROM TAPE TO DASD
1: DASD-->TAPE      - COPY FROM DASD TO TAPE
2: TAPE INITIALIZE  - INITIALIZE TAPE LABEL
3: TAPE PRINT       - DISPLAY CONTENTS OF TAPE LABEL
4: TAPE INFORMATION - GET TAPE INFORMATION FROM DDF
5: DASD INFORMATION - GET DASD INFORMATION FROM DDF
6: MODE INFORMATION - GET DDF STATUS INFORMATION
7: HELP            - GET INFORMATION ABOUT DDF FUNCTION
8: EXIT           - COMPLETE DDF TERMINATION
9:                -

USER-ID  ==> ABC1234
TAPE-DSN ==> 'FILE1'
TAPE-VOL ==> VOL001
DASD-DSN ==> DATA1.TEXT
-----
.SELECT OPTION
.SPECIFY PARAMETERS
.PRESS ENTER
```

この例では、MTのデータセット名としてFILE1（TAPE-DSNは引用符でくくって指定しないと先頭に利用者識別名が付加される）、MTのボリューム通し番号としてVOL001、DASDのデータセット名としてDATA1.TEXTが指定されている。

③ Data で処理に必要な項目を入力しENTERキーを押す。

例1.3 Dataの入力

```
-----< DATASET INFORMATION >-----USER-ID = ABC1234 -  
  
---<FUNCTION : TAPE--->DASD          > ---  
UTILITY ==> 2  0: JSGMOVE  1: JSECOPY  2: JSDGENER  3:  
DSORG  ==> Q  0: PS  1: PO(M)  2: PO  3:DA  
< TAPE INFORMATIONS >  
  DATASET NAME ==> 'FILE1'  
  DATASET NUMBER==> 1  
  VOLUME SERIAL==> VOL001  
  LABEL TYPE   ==> SL  DEN ==> 3  1: 556  2: 800  3:1600  4: 6250  
  RECORD FORMAT==> FB  LRECL ==> 80  BLKSIZE ==> 3440  
< DASD INFORMATIONS >  
  DATASET NAME ==> DATA1.TEXT  
  DATASET MEMBER NAME ==> (ONLY PO(M))  
  VOLUME SERIAL==> PUB003  UNIT NAME==> PUB  
  SPACE UNIT   ==> TRK  VALUE ==> 2  INCREMENT ==> 2  
  AVERAGE BLKL ==> DIRECTRY ==> _  DISP ==> KEEP  
  
  RELEASE JOB ==>  
  
-----  
.SPECIFY DATASET INFORMATIONS  
.PRESS ENTER KEY
```

この例では、ユーティリティはJSDGENER（順データセットの転送）、磁気テープ上のデータセットは1番目にあり、ラベルは標準ラベル、記録密度は1600、レコード形式は固定長ブロック化レコード、論理レコードサイズは80、ブロックサイズは3520を指定している。

なお、DASD上のデータセットに関しては標準値を採用している。DIRECTRYは初期値10が設定されているので順編成データセットの場合消去しなければならない。

また、使用するMTがDDFで作成されたものであれば磁気テープ管理情報によって値が入れられ、標準ラベルMTの場合はレコード形式、論理レコードサイズ、ブロックサイズは指定する必要はない。

- ④ 画面が Proce に変わりMT取り付けのメッセージが表示されるので、'OK'と入力してENTERキーを押した後にMTを取りつける。

例1.4 Proceの入力

```
-----< PROCESING INFORMATION >-----USER-ID = ABC1234 --
UNIT=280 VOL=VOL001 MOUNTED OK OR NG
REPLY==> OK

NOW PROCESSING( TAPE-->DASD )
USED TO VOL001
STARTED TIME: 14:52:13
INPUT DATASET: 'FILE1'
OUTPUT DATASET: DATA1.TEXT
-----
```

この例では、磁気テープ装置機番280にMTを取り付ける。

- ⑤ 転送処理が終わると画面が Term に変わり、完了コードをみてDDFを終了するか Primに戻るかを指定する。

例1.5 Termの入力

```
-----< TERMINATION MENU >-----USER-ID = ABC1234 --
OPTION ==> 0

0: RETRY - RETURN TO DDF PRIMARY OPTION MENU
1: EXIT -COMPLETE DDF TERMINATION
2: DELETE - DELETE DASD DATASET

PROCESSING( TAPE-->DASD ) ENDED, 0000
STARTED TIME: 14:52:13
ENDED TIME: 14:53:30
INPUT DATASET: 'FILE1'
OUTPUT DATASET: DATA1.TEXT
-----
```

この例では、完了コードが'0000'なので正常終了している。また、OPTIONで0を指定しているので Primに戻る。

3. 2 DASD→MT転送

- ① Prim でオプション1を指定し、MTのデータセット名、ボリューム通し番号、DASDのデータセット名を入力した後にENTERキーを押す。

例2. 1 Primの入力

```
-----< DDF PRIMARY OPTION MENU >-----
OPTION==> 1

0: TAPE-->DASD      - COPY FROM TAPE TO DASD
1: DASD-->TAPE      - COPY FROM DASD TO TAPE
2: TAPE INITIALIZE  - INITIALIZE TAPE LABEL
3: TAPE PRINT       - DISPLAY CONTENTS OF TAPE LABEL
4: TAPE INFORMATION - GET TAPE INFORMATION FROM DDF
5: DASD INFORMATION - GET DASD INFORMATION FROM DDF
6: MODE INFORMATION - GET DDF STATUS INFORMATION
7: HELP             - GET INFORMATION ABOUT DDF FUNCTION
8: EXIT             - COMPLETE DDF TERMINATION
9:                 -

USER-ID  ==> ABC1234
TAPE-DSN ==> 'FILE1'
TAPE-VOL ==> VOL001
DASD-DSN ==> DATA1.TEXT
-----

.SELECT OPTION
.SPECIFY PARAMETERS
.PRESS ENTER
```

の例では、MTのデータセット名としてFILE1（TAPE-DSNは引用符でくくって指定しないと先頭に利用者識別名が付加される）、MTのボリューム通し番号としてVOL001、DASDのデータセット名としてDATA1.TEXTが指定されている。

② Data で処理に必要な項目を入力しENTERキーを押す。

例2. 2 Dataの入力

```
-----< DATASET INFORMATION >-----USER-ID = ABC1234 -  
  
---<FUNCTION : DASD-->TAPE          > ---  
UTILITY ==> 1  0: JSGMOVE  1: JSECOPY  2: JSDGENER  3:  
DSORG  ==> 2  0: PS  1: PO(M)  2: PO  3:DA  
< TAPE INFORMATIONS >  
DATASET NAME ==> 'FILE1'  
DATASET NUMBER==> 3  
VOLUME SERIAL==> VOL001  
LABEL TYPE  ==> SL  DEN ==> 3  1: 556  2: 800  3:1600  4: 6250  
RECORD FORMAT==> FB  LRECL ==> 80  BLKSIZE ==> 3440  
< DASD INFORMATIONS >  
DATASET NAME ==> DATA1.TEXT  
DATASET MEMBER NAME ==> (ONLY PO(M))  
VOLUME SERIAL==> PUB003  UNIT NAME==> PUB  
SPACE UNIT  ==> TRK  VALUE ==> 2  INCREMENT ==> 2  
AVERAGE BLKL ==> DIRECTRY ==> 10  DISP ==> KEEP  
  
RELEASE JOB ==>  
  
-----  
.SPECIFY DATASET INFORMATIONS  
.PRESS ENTER KEY
```

この例では、ユーティリティはJSECOPY（区分データセットの転送）、処理形態は区分データセット、磁気テープ上のデータセットは3番目にありラベルは標準ラベル、記録密度は1600、レコード形式は固定長ブロック化レコード、論理レコードサイズは80、ブロックサイズは3520を指定している。

③ この後の処理はMT-->DASD転送とほぼ同じなので3. 1を参照されたい。

3. 3 MTイニシャライズ

- ① Prim でオプション2を指定し、MTのボリューム通し番号を入力した後にENTERキーを押す。

例3. 1 Primの入力

```
-----< DDF PRIMARY OPTION MENU >-----
OPTION==> 2

0: TAPE-->DASD      - COPY FROM TAPE TO DASD
1: DASD-->TAPE      - COPY FROM DASD TO TAPE
2: TAPE INITIALIZE  - INITIALIZE TAPE LABEL
3: TAPE PRINT       - DISPLAY CONTENTS OF TAPE LABEL
4: TAPE INFORMATION - GET TAPE INFORMATION FROM DDF
5: DASD INFORMATION - GET DASD INFORMATION FROM DDF
6: MODE INFORMATION - GET DDF STATUS INFORMATION
7: HELP            - GET INFORMATION ABOUT DDF FUNCTION
8: EXIT           - COMPLETE DDF TERMINATION
9:                -

USER-ID ==> ABC1234
TAPE-DSN ==> *
TAPE-VOL ==> VOL001
DASD-DSN ==> *

-----
.SELECT OPTION
.SPECIFY PARAMETERS
.PRESS ENTER
```

この例では、MTのボリューム通し番号としてVOL001が指定されている。

② Tinit が表示されるのでラベル形式と記録密度を指定しENTERキーを押す。

例3. 2 Tinitの入力

```
-----< TAPE INITIALIZE >-----USER-ID = ABC1234 -----  
  
VOLUME ==> VOL001  
TYPE ==> Q      0: SL      1: NL      2: JL      3: AL  
DENSITY ==> J    1: 556    2: 800    3: 1600   4: 6250  
-----  
.MOUNT TO TAPE FOLLOWING BY MESSAGE  
.SPECIFY PARAMETERS  
.PRESS ENTER
```

この例ではラベル形式は標準ラベル、記録密度は1600を指定している。

③ Tinit のメッセージ表示領域に下記のメッセージが表示されるので'OK'と入力し、ENTERキーを押した後MTを取り付ける。

```
UNIT=280 VOL=VOL001 MOUNTED OK OR NG  
REPLY==> OK
```

④ 取り付けたMTがディスマウントされ再度同じメッセージが出されるので、'OK'と答える。

```
UNIT=280 VOL=VOL001 MOUNTED OK OR NG  
REPLY==> OK
```

⑤ 下記のメッセージが表示されるのでMTを取り付ける。

```
UNIT=280 IS NOT READY
```

⑥ 処理が終了しENTERキーを押すと Prim に戻る。

4. 使用上の注意

- ① DDFは情報処理教育センターI/O室のサブコンソールの横にあるDDF用端末でなければ使用できない。
- ② DDFではMT→MT, DASD→DASD転送の機能はない。
- ③ DDFを使用する場合はLOGON時に'PROC (TSSB)'のパラメータを指定する必要がある。
- ④ 本センタのDDFは単一デマンド方式を採用しているのでFACOM OSIV/F4 MSP DDF説明書を読まれる場合はその点注意されたい。
- ⑤ 他センタで作成されたMTでSL (標準ラベル) 形式以外のはMT→DASD転送の結果の保障はされない。
- ⑥ DDFの機能でMTを使用するものは、MTを取り付けた後で処理を中止することはできないので十分確認の上実行すべきである。